



准F 現地検討会 1日目(H25.1.30)

①
関東森林管理局では、准フォレスター研修を補完し、さらに准フォレスター同士の連携を深めることを目的に、フォローアップ研修と位置付けた現地検討会を開催しました。

二日間の行程で、茨城県にある森林技術センターの試験地をフィールドに現地検討と意見交換を行います。

初日は「筑波山試験地」において、様々なタイプの複層林試験の状況を視察しました。



③
点状保残区林内にて、正木隆 森林総合研究所 森林植生研究領域 群落動態研究室長による説明。

講師陣からは、林縁に近い部分と林内では光環境等の違いから下木の様子も異なる。林内に入って、つぶさに観察することの重要性などが説明されました。



⑤
モザイクの「つなぎ目」にあたる、林相が変わる部分を林内に入って見ていきます。

先にみた「点状保残区」に比べて、林内が明るく広葉樹の進入が見られるところもありました。

下層植生を見ることで林内の光環境や土壌について推察できるという解説があり、将来の目標林型を考えるとときにはトータルに見ていくことの重要性が説明されました。



②
まずはじめに、点状に上木を残して下木を植栽する複層二段林として育成している「点状保残区」です。

上木の密度が下木に与える影響を調べるものであり、上木の残存本数を200、300、400、500本と変えて試験を行っているところです。

光環境の違い等から下木の成長に明らかな差異がみられることを実際に目にすることが出来るため、参加者は興味深く観察していました。



④
試験地のひとつ「長期育成循環施業区」の説明看板です。

ここはモザイク状に仕立てる複層林の試験地であり、現在3段階となっている状態から分散的に伐採と更新を繰り返し、将来的には20年から160年生までの8段林にすることを目標にしています。

参加者からは、持続的な森林の活用に向けて将来性のある取組みだとの声が聞かれました。



⑥
谷本文夫 宇都宮大学名誉教授による説明の様子。

上木の成長のために急激な上木の伐開を行うことは、下木にダメージを与えるなどの逆効果もあると解説がありました。

また、経済性を考慮し現実的かつ柔軟な方法を考えること、将来に向けてどのような目的をもって森林を育てていくかをマニュアルに頼ることなく、自分の目で山を見て考えることが大切であるというアドバイスをいただきました。



2日目(H25.1.31)

①

2日目は、広葉樹の導入等による林分内容の多様化を図り、木材生産機能と公益的機能のバランスのとれた森づくりのための森林管理手法を研究するための試験を行っている「大沢試験地」を視察します。森林技術センター 林田所長より概略を説明します。

なお、初日の夕方には宿泊場所の筑波研修センターにおいて座学形式での意見交換と、さらに深い議論を交わすべく懇親会を催しました。



③

これは、植栽した木がカミキリの被害が原因で雪折れしてしまった状況です。

虫や気象害のみならず、そもそも広葉樹は暴れやすく、横に枝を張る十分なスペースも求められること等、広葉樹を育成することは、放っておけばいいというわけではなく非常に難しいものであるとの講師の言葉です。

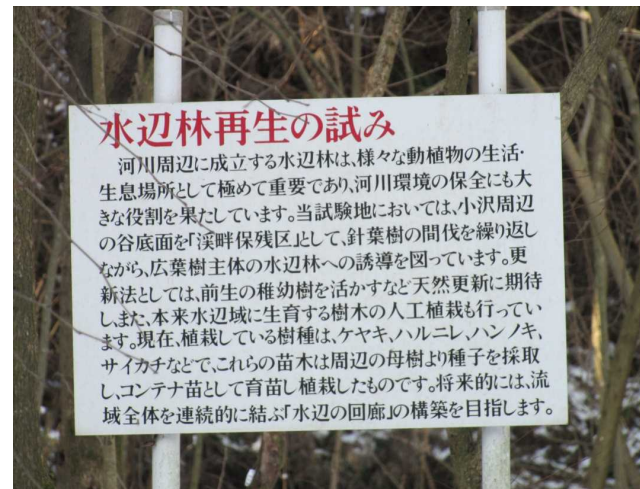


⑤

続いて「針葉樹育成区」において解説を受けている様子。

ここでは、植栽木の成長が良好であることと生産効率を考慮して試験地を設定しており、木材生産機能を高度に発揮させるため、間伐を繰り返しながら長伐期に導き、経済価値の高い森林を育成するための研究を目的としています。

このあと、笠間市の森林技術センターに戻って終了です。



水辺林再生の試み

河川周辺に成立する水辺林は、様々な動植物の生活・生息場所として極めて重要であり、河川環境の保全にも大きな役割を果たしています。当試験地においては、小沢周辺の谷底面を「溪畔保残区」として、針葉樹の間伐を繰り返しながら、広葉樹主体の水辺林への誘導を図っています。更新法としては、前生の稚幼樹を活かすなど天然更新に期待しました。本来水辺域に生育する樹木の人工植栽も行っています。現在、植栽している樹種は、ケヤキ、ハルニレ、ハンノキ、サイカチなどで、これらの苗木は周辺の母樹より種子を採取し、コンテナ苗として育苗・植栽したものです。将来的には、流域全体を連続的に結ぶ「水辺の回廊」の構築を目指します。

②

“水辺林再生への試み”

ここは「溪畔林保残区」という試験地であり、針葉樹の間伐を行い前生の稚幼樹を活かす天然更新のほか、ハルニレ、サイカチやエノキの人工植栽も行っています。

溪畔林の重要性と再生の考え方、その難しさについてなど、解説と意見交換がなされました。



④

森林総合研究所 群落動態研究室 主任研究員の太田敬之氏(写真中央)からは、初日室内において、今回の2か所の現地に関する試験内容の詳細と各種データの紹介、今後に向けた考え方についてもご講義をいただきました。

この度の現地検討会にご協力いただきました3名の講師陣の話は、現場で様々な課題に直面する准フォレスターにとっての糧となることでしょう。



⑥

あっという間に二日間を終えて閉講式。

各講師からの総括に続き、関東森林管理局 池田計画部長からは今後の准フォレスターとしての益々のご活躍とさらなる民国連携へのご協力をお願いする閉講挨拶にて締めくくりました。

みなさまお疲れ様でした。

今後も、趣向を変えながらフォローアップの取り組みを継続してまいります。